

# 第45回 県外教学習会

## 「自分の国」を問い続けて ～国籍とは～

### チェソンエ ＜崔善愛さん トークとピアノコンサート＞

#### 崔善愛(チェソンエ)さん

ピアニスト。北九州出身、東京都在住の在日3世。愛知県立芸術大学器楽科ピアノ専攻卒業後、同大学大学院修了。米国インディアナ州立大学大学院に3年間留学。21歳のとき、指紋押捺拒否、そのことを理由に再入国不許可となり特別永住資格を剥奪され、二つの裁判を最高裁まで20年間闘う。1999年国会参議院審議に参考人として招かれ14年ぶりに永住資格を原状回復。



帰国後、横浜・東京でインターナショナルスクール講師を務める。音楽芸術家協会に所属し、ピアニストとして、ソウル・バッハ音楽祭、イタリア、マケドニア、コソボなど世界各地の国際音楽祭に招かれるなど、国内外で活躍している。演奏活動の傍ら、コンサートの収益を多田謡子反権力人権基金に寄付したり、全国各地で「平和と人権」をテーマに講演するなど、積極的に人権啓蒙活動をおこなっている。とくに近年「ショパンの手紙」コンサートが全国各地で絶賛され、2005年、著書『「自分の国」を問いつづけて』が劇化、「最終目的地は日本」(制作・木山事務所、脚本:堤春恵、主演:若村麻由美)は、韓国「世宗会館」と東京「俳優座」の全公演がソールドアウトとなるなど好評。2010年には韓国強制併合100年共同行動の呼びかけ人となる。

著書:『「自分の国」を問いつづけて』(岩波ブックレット)、『父とショパン』(影書房)、  
『ショパン～花束の中に隠された大砲』(岩波ジュニア新書)。その他対談集等多数。  
CD:『ZAL』(ショパン作品集)、『Piano, my identity』(ともに若林工房)がある。

第45回県外教学習会にお迎えする崔善愛さんは、21歳の「指紋押捺拒否」を理由に再入国不許可となったまま、米国にピアノ留学をされます。指紋押捺裁判の被告、再入国不許可取り消し訴訟の原告として、20年間におよぶ裁判闘争の末、特別永住資格を回復されます。

「祖国にはもう戻れないかもしれない」との悲しみを抱いてポーランドを離れたショパンと、ご自身やアボジとを重ね、国籍・国とは何か、アイデンティティーとは何かを問われています。華麗なショパンの調べとともに、国家や民族についての想いを届けてくださるでしょう。

各郡市人教・人推協・高校を通じて、奈良県外教まで参加申し込みをしてください。

◇とき◇ 2012年7月30日(月) 午後2:00～

◇ところ◇ やまと郡山城ホール ◇参加資料代◇1000円